

今後の「OAB・・・J」番号の在り方について

平成16年度電気通信番号に関する研究会（第1回）ヒアリング資料

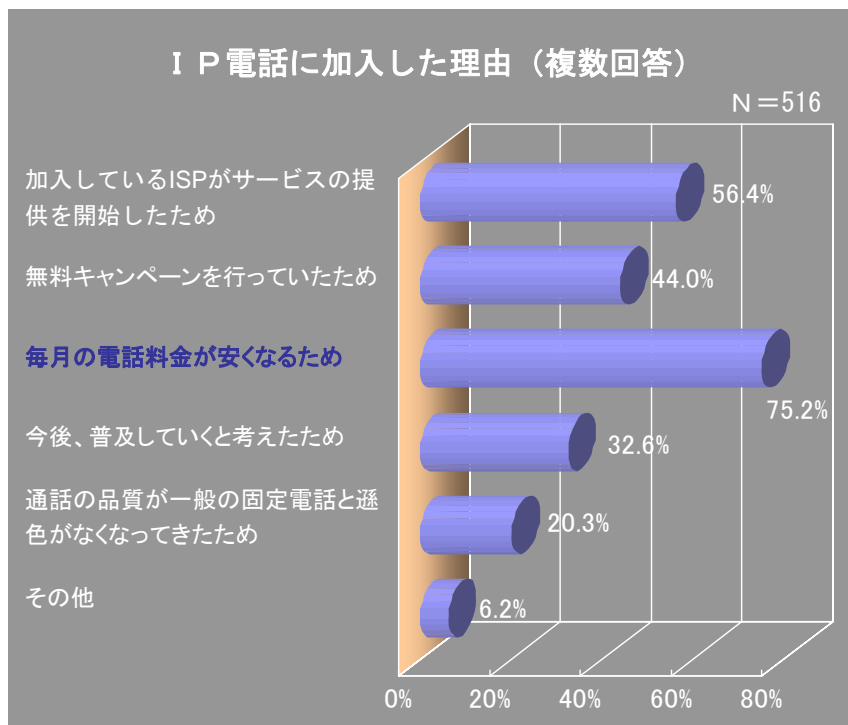
平成16年12月22日

日本テレコム株式会社

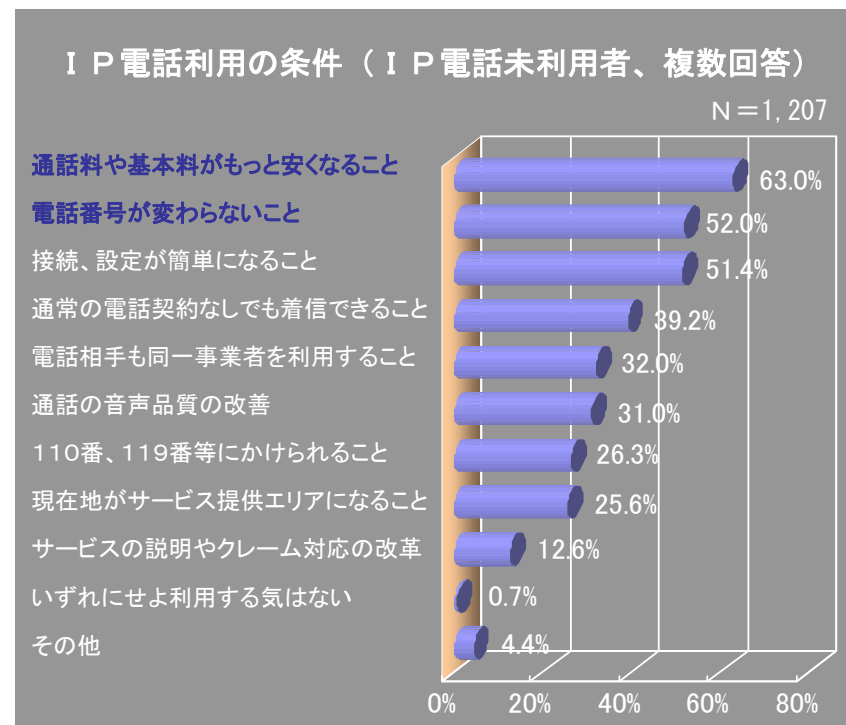
1. IP電話の現状



- 現時点でのユーザーの関心の中心は料金や電話番号 → 固定電話の代替と捉えている
- 特に、番号体系や品質が固定電話と同等の0AB～J IP電話は固定電話の完全な代替



【出典】 公正取引委員会事務総局「ブロードバンドサービス等の競争実態に関する調査報告書」平成16年4月



【出典】 「情報通信インフラに関する調査」
(総務省「情報通信白書 平成15年版」)

2. 自社ネットワークの方向について



- 当社の方向性：その時点でのお客様ニーズを満たす最適な技術によるサービスの提供

	IPネットワーク	回線交換
共通点	● 加入者交換機レベルに終端装置、ルータを設置することにより、加入者交換設備（交換機、ルータ等）が自社コストとなり、料金設定の自由度が上がる	
相違点	● 今後の発展性（SIPによる他のIPサービスとの統合等）	● 固定電話と同等のサービスを提供可能（キャッチホン、3者通話等） ● 現在の固定電話水準の品質を確保

- 「おとくライン」（ドライカップを利用した直収電話サービス）
 - ・ 回線交換による、現在の固定電話水準（品質・機能）のサービス
 - ・ 料金は、固定電話・IP電話双方の競争を勘案した、競争力ある水準
→ 0AB～J IP電話は「おとくライン」のライバル
 - ・ 将来のIP化への展開は、その時点での技術動向・お客様ニーズにより判断

3. 現在の「0AB・・・J番号」の役割

■ 地理の識別(市外番号、市内番号)

- (1) 距離別料金水準の認識
- (2) 発着信場所を利用したサービスの実現(フリーコールの着信制限)
- (3) 回線交換ネットワークにおけるルーチング

■ サービスの識別(固定電話、携帯電話/PHS、・・・)

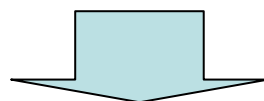
- (1) 料金水準・サービス区別の認識
- (2) 品質(通話品質、接続品質、呼損率)の認識
- (3) 回線交換ネットワークにおけるルーチング

■ 必要最低限の桁数

「電話機」からのダイアリングを前提とした桁数の制限(9桁以内)

4. 検討の前提

- ・ 現在の「0AB・・・J」番号は永く国民に慣れ親しまれてきており、急速な変更は国民生活に混乱を来たす可能性がある
- ・ 現在の固定電話とIP電話は同一市場(代替品)である



- ・ 当面の固定電話・IP電話「併存時」と、将来の(完全)IP化「移行時」とは分けて議論すべき
- ・ まずIP化移行後の電気通信番号のあり方を検討した上で、併存時に既存の固定番号と併存しうる現実的な電気通信番号のあり方・移行方法を検討すべき
- ・ 電気通信番号は市場競争に影響を与えることから、当面の「併存時」の固定電話とIP電話の電気通信番号は同一体系とすべき

※現在の固定電話に大きな番号体系の変更を導入することはコスト的に困難か

■ 検討の仮定

- ・ 固定電話料金の低廉化・全国フラット化
 - ・ 携帯電話料金の低廉化・全国フラット化
- } 固定・携帯の融合へ
- ・ パーソナル化の進展(一人複数番号(会社、家庭、・・・))
 - ・ 技術の進展による通話品質等の向上
 - ・ 電話機以外から／電話機以外への通話



ユビキタス社会へ

■ 番号構成

- ・ 全国フラット料金化が進展するとすると
 - ⇒ 単位料金区域(MA)の識別は必要なくなる
- ・ 番号による固定／携帯サービスの区分けが不要とすると
 - ⇒ 電気通信番号とサービスを関係させる必要はなくなる
- ・ 端末が「電話機」とは限らないとすると(メモリダイヤルのみの利用等)
 - ⇒ 桁数の制限(9桁)は必要なくなる
 - 「閉番号」である必要はなくなる

6. IP化移行時の電気通信番号等のあり方(2)

■ 通話品質

- ・ 技術の進展により固定・携帯等各種サービスの通信品質が同等化するとすると
 - ⇒ 電気通信番号と通信品質を関係させる必要はなくなる

■ 緊急通報

- ・ IP電話に移行しても緊急通報は必須であるとする
 - ⇒ 提供事業者数の増加に対応して新たな緊急通報接続方法の検討が必要
また、緊急通報機関の対応も検討が必要

■ 番号空間容量

- ・ パーソナル化が進展するとすると
 - ⇒ 大幅な番号空間容量の拡大が必要

当面の「併存時」の固定電話とIP電話の電気通信番号は同一体系とすべき



- ・完全なIP化への移行には相当期間を要するとすると、IP電話の電気通信番号は現行固定電話と同一体系(ルール)とせざるを得ない
- ・その上でIP電話の番号容量を確保するにはIP電話については先行して現行番号体系の下部への桁延ばしが有効か
(例 0AB...JKL 等の11桁化)

■直近の検討課題

- ・ IP電話は1ロケーションに複数番号付与が容易となることから、番号空間逼迫を加速する恐れ ⇒ 番号空間逼迫対策の検討
- ・ 料金の低廉化、全国フラット料金の導入等に伴い、場所を意識する必要性が薄れてきたことによる番号区画・単位料金区域(MA)のあり方の検討(但し、MAの統合等の変更は全事業者に影響を与える。)